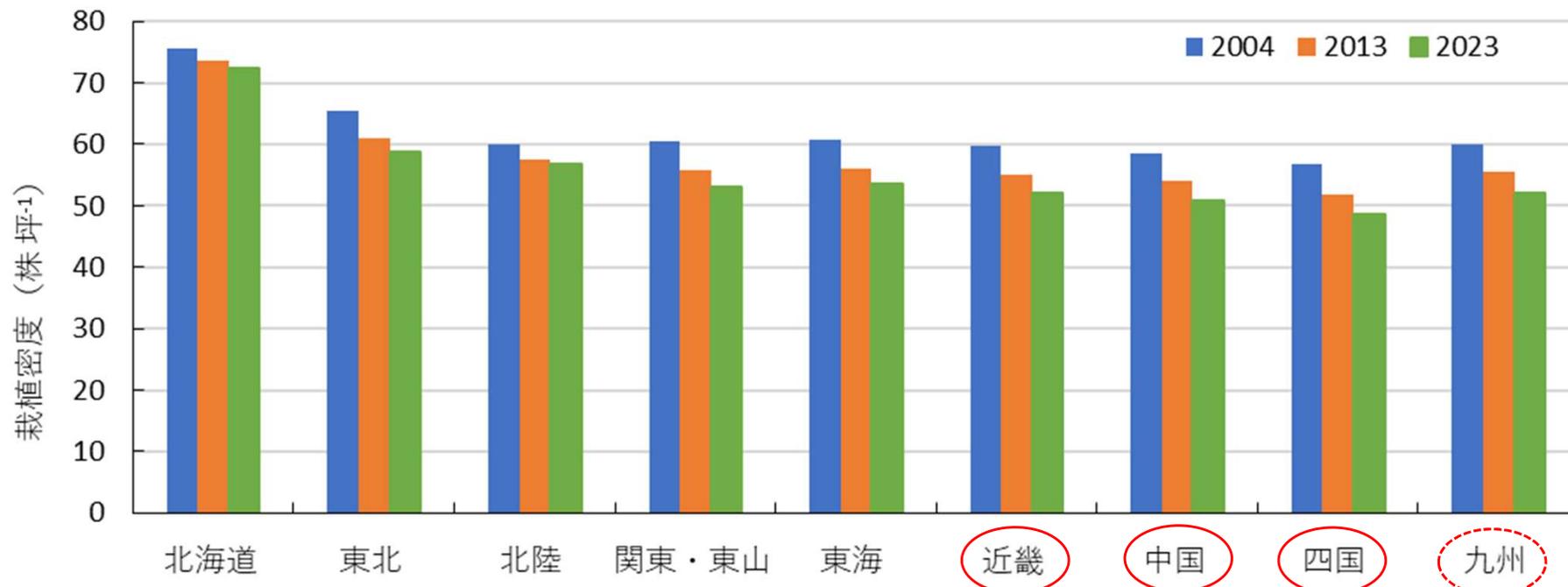
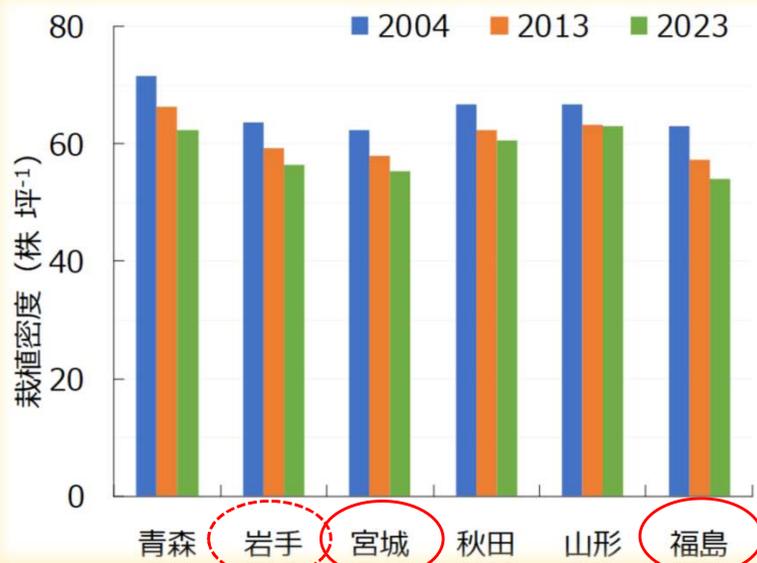


37～50株/坪の疎植栽培の活用



◆ 関東以南、とくに近畿、中国、四国で疎植化(37～50株/坪)が進展中

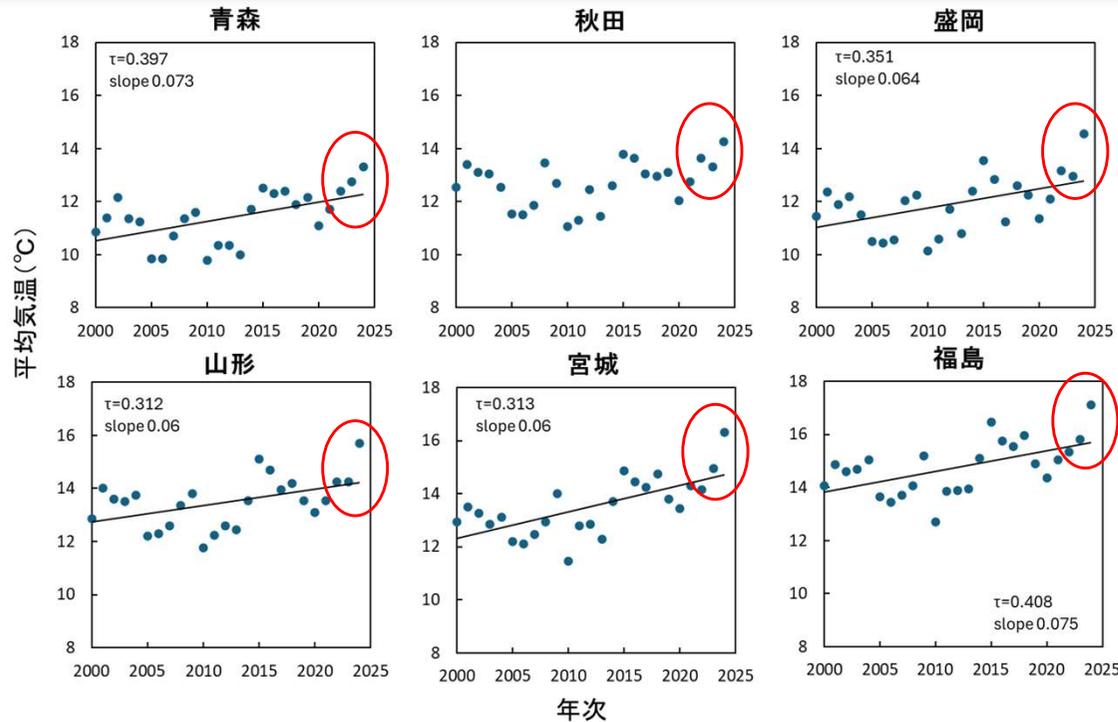


◆ 宮城、福島
⇒ 疎植化(37～50株/坪)が進展中

◇ 岩手
⇒ 50株/坪が進展中

「日本の稲作の疎植化(37～50株/坪)
⇒ 今後も進展する予感……」

生産現場の温暖化対応ニーズに対して

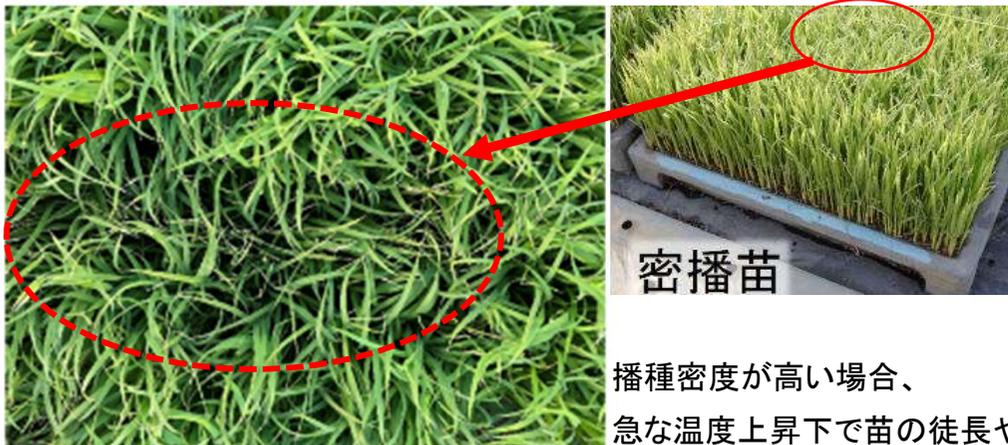


東北6県における4, 5月の平均気温のトレンド解析
 $p < 0.05$ の場合 τ (Mann-Kendallタウ統計量) とSen Slopeを記載

- ◆育苗期における気温は上昇傾向
- ◆突発的に昇温する年もあり
- ◆2023、2024は東北全域で大きく上昇し育苗管理に影響
- ◇1経営体あたりの作付面積は増加傾向
→育苗期間の長期化
- ◇密播苗は、苗質の長期維持が困難

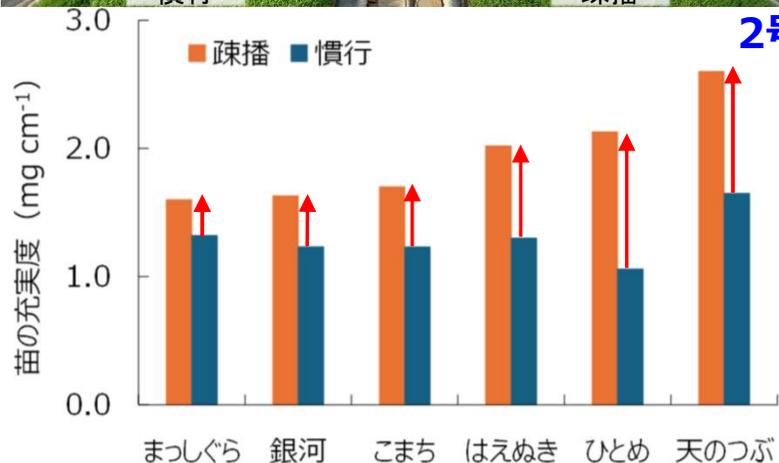


「経営の大規模化」、「温暖化環境」
でも安定した苗質の確保
↓
健苗の重要性の醸成



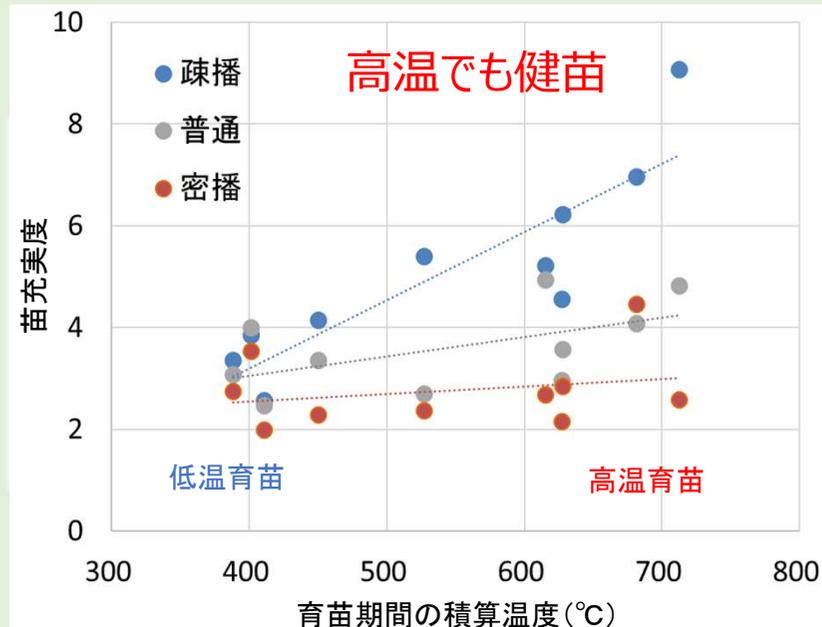
密播苗
播種密度が高い場合、
急な温度上昇で苗の徒長や葉の老化が起こりやすい

疎播による健苗の活用



【疎播健苗】

↓
乾籾65～
100 g/苗箱



播種量が少ない→種籾がない箇所発生
→欠株が心配

↓ 欠株率に対応した播種密度ごとの必要苗箱数の目安表 ↓



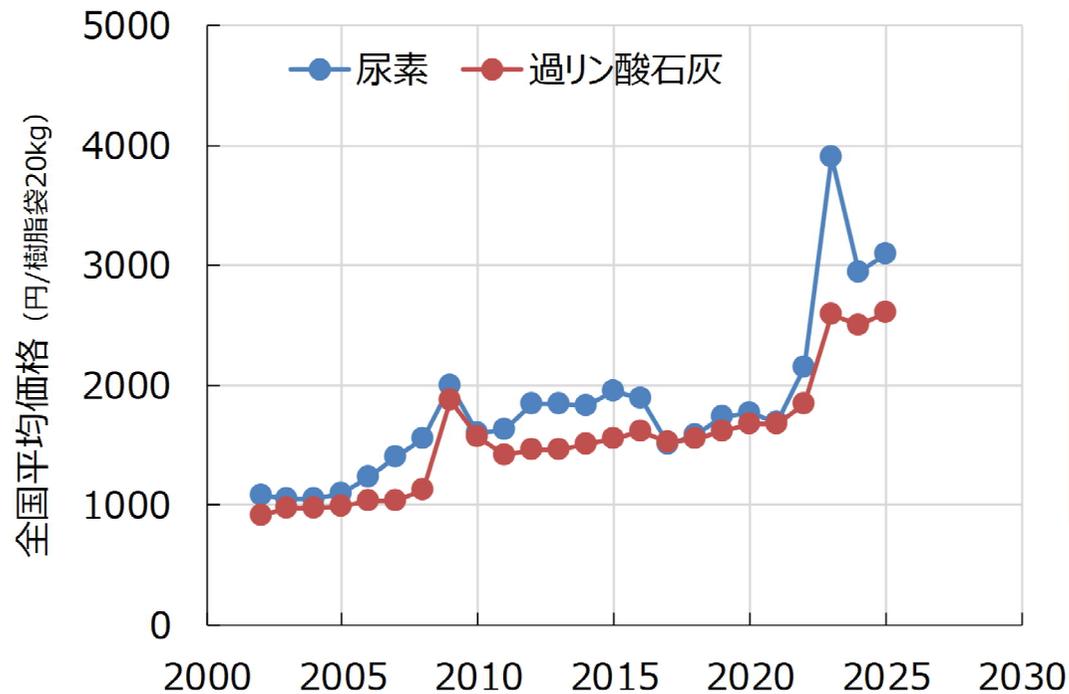
南東北地域で
減収しないと報告
されている欠株率



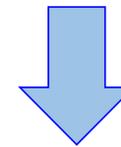
一般的な播種
密度で基準となる
欠株率

植付本数・栽植密度	65g 箱 ⁻¹	80g 箱 ⁻¹	100g 箱 ⁻¹
→ 2.3本/株 欠株率10%	(箱10a ⁻¹)		
50株 坪 ⁻¹ (15.9株 m ⁻²)	16.8	13.7	11.0
37株 坪 ⁻¹ (11.1株 m ⁻²)	11.8	9.6	7.7
→ 3.7本/株 欠株率2.1%	(箱10a ⁻¹)		
50株 坪 ⁻¹ (15.9株 m ⁻²)	27.1	22.0	17.6
37株 坪 ⁻¹ (11.1株 m ⁻²)	19.0	15.4	12.3

低コストニーズ ⇒ 安価な尿素水の活用



近年の
肥料価格の高騰は大きなインパクト
⇒明らかに肥料価格の高騰は継続
⇒今後も高騰していく予感...



市販一発肥料
4600円/20kg
(27-10-8)



市販ペースト
4400円/20L
(15-10-12)



自前での尿素水
1890円/20L
(18-0-0)



低温下で固結するメーカー品あり

高品位尿素水
「NウォーターMAXX」
1400円/20L
(17-0-0)

新日本化成株式会社
<https://www.nj-c.co.jp/>



安価で高品質な尿素水の活用

環境にやさしい稲作りに向けて・・・

稲作現場のマイクロプラスチック問題の解決に向けて

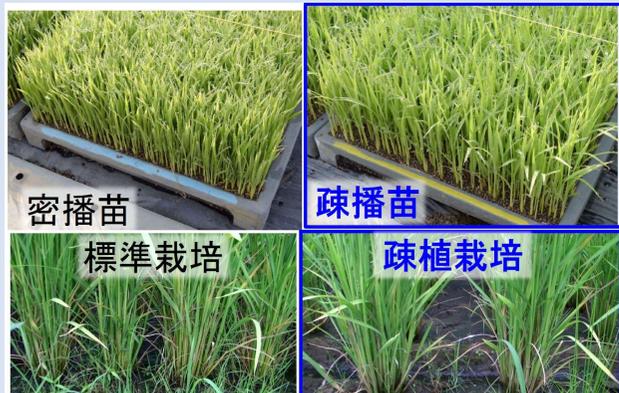
- 頑健で旺盛な生育が発揮される**疎播・疎植栽培法**
- イネの根系の発達に合わせた省力的な**ペースト2段施肥技術**



「緩効性肥料をつかわない新たな稲作技術の確立」



疎播・疎植栽培



ペースト2段施肥



N ウォーターMAXX



単位	個別経営		組織法人経営	
	実数	本開発技術	実数	本開発技術
円	72,644	65,764	64,676	58,877
円	22,733	22,733	18,090	18,090
円	10,601	10,601	12,750	12,750
円	9,476	4,199	8,395	4,199
円	8,084	6,481	8,362	6,759
円	29,827	28,037	22,115	20,788
円	102,471	93,801	86,791	79,665
円	12,922	10,973	11,524	9,841
kg	551	617	511	572
時間	21.06	19.79	14.01	13.16
a	244	244	2404	2404



「環境にやさしい稲作への大転換」
「安心、安全でおいしい米の供給」